

中濃農林事務所の普及活動状況

令和2年11月30日現在

今月の重点活動

■(農)美濃種子 栽培研修会の開催

水稲品種「ほしじるし」は、中生品種「あさひの夢」の代替品種として、本県平坦地域の担い手農家を中心に作付けされている。(農)美濃種子では、来年産からの「ほしじるし」の種子生産に向けて、本年はほ場隔離栽培を行った。

11月25日～26日に、JAめぐみのグリーンメックにおいて栽培研修会が開催された。研修会では本年産の水稲生育状況や病害虫発生状況等について振り返った後、農業普及課から次年度に向けて、主力品種「ハツシモ岐阜SL」や新規に取り組む「ほしじるし」の栽培方法等について、品種特性を踏まえて情報提供した。

生産者からは積極的に質問等があり、優良種子生産に向けた意識の高さ、産地のこだわりが感じられた。



【研修会の様子】

(地域支援係)

新たなブランドづくり

■夏秋なす 中濃夏秋茄子生産出荷組合役員会の開催

中濃夏秋茄子生産出荷組合は、JA集荷場で共同選果して出荷する18名の生産者とJAめぐみの実証圃場で構成され、単収・栽培技術の向上や産地規模の拡大などを目的に活動している。

共同出荷が終了したのを受けて、11月13日に役員、JA担当者、農業普及課が出席して役員会が開催された。役員会では、本年作の出荷実績がJAから報告された後、来年産茄子苗や今後の組合活動について話し合われた。

農業普及課では、12月に実施される土壌診断の結果や、JAから提供される個人出荷実績、栽培・防除日誌等を基に研修資料を生産者ごとに作成し、1月に実施される3者面談を通じて次年度の栽培を支援していく。



【役員会の様子】

(地域支援係)

売れるブランドづくり

■円空さといも 県さといも部会研修会で調査結果等を報告

10月29日に、県さといも部会研修会がJAめぐみのグリーンメックで開催された。

新型コロナウイルス感染症予防のため、県内各生産部会の役員のみが参加し、鹿児島大学農学部の教授から湛水畝立マルチ栽培による収量・品質向上技術について、リモートで講演を聴講した。農業普及課からは、岐阜大学の教授らと10月に実施した現地調査等の結果や、病害の発生状況等を報告した。

今後農業普及課では、中濃里芋生産組合へ病害対策を加えた栽培暦の作成を支援し、円空さといもの生産振興に継続して取り組んで行く。



【調査結果等の報告】

(地域支援係)

■ゆず 農薬実証ほの品質調査を実施

関市上之保地域のゆずは農薬を使用せず栽培されているため、病害虫による被害を少なからず受けており、搾汁などの加工に利用される果実がほとんどである。そのため、病害虫による被害の無い果実が求められる青果需要に対し十分対応できていない。

そこで、青果販売に耐えうる病害虫被害の無い果実を生産するため、農薬の実証ほを設け、殺菌剤3回、殺虫剤1回の防除を実施する実証区と、農薬を使用しない対照区の比較試験を行った。

11月16日、実証区と対照区の果実品質を比較調査した。その結果、病害虫被害の少ない果実の割合は、実証区が10%に対し対照区は0%であった。病害虫被害が中程度の果実の割合は、実証区が28%に対し対照区は2%であった。病害虫被害が著しい果実の割合は、実証区が62%に対し対照区は98%であった。以上の結果から、農薬の使用はゆず果実の病害虫被害を大幅に軽減できることが実証できた。

今後、費用対効果を分析し、今年度設立する「上之保ゆず研究会（仮称）」に対し調査結果を情報提供する予定である。



【収穫調査の様子】

（地域支援係）